

F-d 社会とともに—独自性のある情報発信

社会とともに—独自性のある情報発信

[活動方針]

私たちは、分析・計測業界の発展に向けたリーダーシップを発揮するとともに、分析・計測機器メーカーならではの視点から、分析・地球環境への関心を呼び起こすメッセージを広く社会へ発信します。

F-d 分析・計測業界発展への取り組み

HORIBA製品が分析機器・科学機器遺産に認定

(株)日本分析機器工業会と(株)日本科学機器協会が、「分析機器・科学機器遺産」を20点認定しました。

日本国民の生活、経済、教育、文化の向上に貢献した文化的遺産として、HORIBAグループからは「pH計H型」(写真右)、「標準ガス分割器SGDシリーズ」(写真中央)、「マスフローコントローラーSEC-4400シリーズ」(写真左)の3製品が選出され、認定証が授与されました。

HORIBAは今後も、継承され続ける優れた技術・機器の創出をめざします。



2012年堀場雅夫賞

(株)堀場製作所が創立50周年を迎えた2003年より、分析・計測技術研究に従事する若手研究者を対象とした賞を創設しました。2012年のテーマは「放射線計測」。毎年1テーマを掲げ、国内外の研究者からユニークな研究を募っています。



F-d Gaiapress (ガイアプレス)

自然・環境・生命・未知との コミュニケーション「Gaiapress」 ガイアプレス

HORIBA が、インターネットの黎明期である1996年から展開するWEBサイト「Gaiapress」。ここでは、自然・環境・生命や科学の未知についてのコミュニケーションをテーマにした多彩なコンテンツを通じて、情報発信を続けています。これらのテーマは、実は私たちの暮らしや企業活動に欠かせない分析・計測技術やセンサーの価値、そして可能性についても、私たちに考えるきっかけを与えてくれます。また、その時々々の社会の関心事について

も敏感にとらえ、内容を充実させながら、読者の疑問に答えているのが特徴です。

「なぜ?」と思うことから科学は発展しました」をコンセプトに、これからも「Gaiapress」で皆様とのコミュニケーションを推進していきます。

Gaiapress
<http://gaiapress.horiba.com/jp/>



1996年から内容を充実させてきた「Gaiapress」。2012年の年間アクセス総数は132,630件

F-d Gaiapress (ガイアプレス)

「Gaiapress」を構成する主なコンテンツ

レッド・データ・アニマル ～ The Ark of Gaia ～

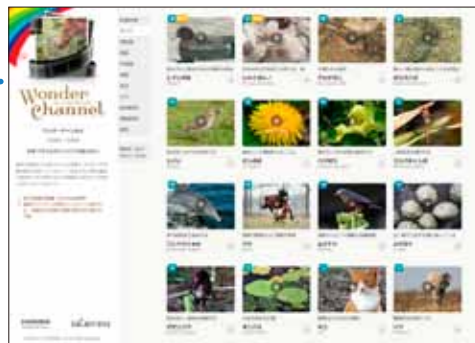
IUCN(国際自然保護連合)によって刊行されている、2004年度版までのレッド・リスト(正しくはIUCN Red list of Threatened Animals)に基づき、絶滅の恐れのある世界の動物を紹介しています。バラエティ豊かな生命の多様性が、地球のかけがえのない資産であることに目を向けるきっかけを作ってくれます。



ワンダー チャンネル Wonder Channel

～映像で見る生物たちの不思議な能力～

動物や昆虫、植物がもつ不思議なセンシング能力をクローズアップし、映像で紹介しています。生命が生きていく上で、「感じること」「はかること」がいかに重要かを多面的に知ることができます。



スーパー センサリウム SUPER SENSORIUM

生命のネットワークや生物多様性、生物が持つ能力を紹介しています。生物多様性条約や生物多様性センターについても知ることができます。



スーパー ネイチャー Super Nature ～不思議探検隊～

「生物の不思議な世界」、「未知とのコミュニケーション」、「不思議の科学」の3つのテーマに分けてたくさんの興味深い不思議を紹介しています。科学が解明しつつある未知の世界を探検することができます。

F-d Gaiapress (ガイアプレス)

アースリウム Earthrium 地球ってどんな星？

アースリウムは㈱堀場製作所と Think the Earth プロジェクトの協働プロジェクトとして、2006年3月にウェブ上のコンテンツとしてスタートしました。コンピュータ上に作られた地球儀を使って、いろいろな角度から地球を切り取ってみようという試みです。

「地球温暖化はどのように進むの?」「30

億年前の地球はどんな姿をしていた?」「英語が話されている国はどこだろう?」「宇宙から見るとオーロラはどんな風に見える?」「ティラノサウルスが生きていた場所は?」など、コンピュータで作ったちょっと変わった地球儀をグルグル回してみたら一度は学んだことであっても、全く違う体験ができるかもしれません。



センサリウム SENSORIUM

「おもしろ分析図鑑」や「分析学入門」など、“はかる”技術の不思議を解説しています。分析・計測技術とは何だろう?という疑問に答えます。



F-d 「動物かんきょう会議」がTVアニメ化

世界的評価を得た「動物かんきょう会議」の誕生から オフィシャルパートナーとして支援

1997年、京都で開催された地球温暖化会議（COP3）に合わせ、HORIBAが運営するWEBサイト「Gaiapress」ガイアプレス上で「動物かんきょう会議」がスタートしました。WEBサイト「動物かんきょう会議プロジェクト」として独立した後、HORIBAはオフィシャルパートナーとして運営に参加しています。

このWEBサイトは、世界各地から集まった個性豊かな動物たちとともにおもしろおかしく環境問題について考えることを通して、子どもたちに考えることの楽しさを伝えています。WEBサイトのほかにも、これまで4巻の絵本マガジンが発行されたほか、韓国・台湾でも翻訳出版され、とりわけ韓国では小

学校の副読本とされるなど海外でも好評を得ています。受賞歴も多く、2008年には東京国際映画祭関連イベントに選抜、2009年にはForum International Cinéma & Littérature（モナコ）から招待され、欧州アニメ会から絶賛されるなど注目を集めています。国際連合が「国際生物多様性年」と定めた2010年の3月から10月、このコンテンツを原作にTVアニメ「動物かんきょう会議」（NHK教育テレビ）全20話が放送されました。

これからも「動物かんきょう会議」のパートナーとして、子供たちに、楽しみながら考えるキッカケをつくっていきたいと考えています。



動物かんきょう会議プロジェクト公式ウェブサイト
<http://zomama.jp/>



© NURUE Inc.

世界各国を代表する様々な動物キャラクターが登場

F-d 第33回 BtoB 広告賞 堂々 3部門で入賞

HORIBA は、一般社団法人日本 BtoB 広告協会が主催する、第 33 回「2012 日本 B to B 広告賞」において、3 部門で入賞しました。カレンダー 2012 がカレンダーの部で銀賞、ABIROH2012 が企業カタログの部で銅賞、卓上型 pH・水質分析計 LAQUA (ラクア) がウェブサイト部の部で銅賞を受賞しました。



【企業カタログの部 銅賞】

作品名:「abiroh (アビロウ) 2012」

広告主: (株)堀場製作所

企画制作: (株)ラユニオン・パブリケーションズ / (株)工作舎

普通の企業では作れない企業カタログ。これが最大のコンセプトです。人に楽しみを与える作品をこれからも作っていききたいと思います。



【カレンダーの部 銀賞】

作品名:「Japanese Botanical Art」

広告主: (株)堀場製作所

企画制作: (株)ラユニオン・パブリケーションズ / (株)工作舎

地球を構成するさまざまな生きものもまた地球の一員であること。その生きものと人類との相互関係を適切に保つていくのに分析技術が欠かせない。今回は江戸の草花。古くから自然と共に歩んできた我が国独自の文化の一片です。365daysメディアとして常にオーディエンスの目に触れるものだからこそ、最も重要な企業メッセージを投げかける高品質な作品を作り続けたいです。



【ウェブサイトの部 銅賞】

作品名: 卓上型 pH・水質分析計 LAQUA (ラクア)

<http://www.horiba.com/laqua>

広告主: (株)堀場製作所

企画制作: SHIROBOSHI

LAQUA の機能とカタチを解き明かすカタログや展示会を含む広告シリーズ。映像による課題提起に始まり、製品・ソリューション説明、製品選定機能までを担い、製品ブランド確立から引き合い獲得までの流れを作りました。

F-d HORIBAの企業広告が2つの広告賞で受賞

HORIBAの企業広告が、第51回ビジネス広告大賞(フジサンケイビジネスアイ主催)雑誌広告部門にて金賞と優秀制作者賞を受賞、第47回日本産業広告賞(日刊工業新聞社主催)新聞部門にて佳作を受賞しました。



【受賞作品】 「歴史の授業で習うのは、過去のことは限らない。」

かつて東洋一の生産量を誇った足尾銅山。日本を世界第3位の産銅国へと押し上げた。その一方で、製錬所からの排煙・排水は付近の自然環境を大きく変え、田中正造による天皇直訴にまで発展する大事件となる。近代化の表と裏、それを伝える製錬所跡に残された1本の煙突。表の歴史は閉山により幕を下ろしたが、植林活動や浄水処理は2012年の現在も続けられている。山が秃げ、魚が死ぬという事態に至って初めて顕在化した足尾の環境問題。分析・計測の技術は、未来に負の遺産を残さぬよう、自然のどんな僅かな変化もいち早くキャッチしなければならない。「社会のセンサーでありたい。株式会社 堀場製作所」

●現在栃木県日光市では、足尾銅山の世界遺産登録に向けた活動が行われています。

F-d 生物多様性活動方針・活動実績

HORIBA は HORIBA グループ CSR 方針に基づき「エネルギー・健康・環境・安全」をキーワードに企業活動を推進しています。この一環として「HORIBA 生物多様性活動方針」をとりまとめました。

HORIBA生物多様性 活動方針

- ①分析計測技術を通じて、生物多様性に貢献する。
- ②生物多様性の重要性を社会に発信する。
- ③地域の関連団体と連携し積極的に活動する。

生物多様性関連 活動実績

- ①絶滅危惧種等をテーマに企業カレンダーを制作
- ②HORIBAホームページに生物多様性関連の動画コンテンツを掲載

Wonder Channel: <http://gaiapress.horiba.com/jp/>

- ③「生き物のセンサー」をテーマに環境出前授業を実施（キッズエンジニア2012等）



キッズエンジニア2012 in 横浜（2012年8月4日）



Wonder Channel : <http://gaiapress.horiba.com/jp/>

F-d Gaiareport 自己評価

HORIBA では、「^{ガイアレポート}Gaiareport2013（冊子及び WEB 版）」に記載されている情報とその集計システムについて、環境省「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」に基づき、グループ経営監査室による自己評価を実施し、同報告を通じてステークホルダーの皆様へ情報を開示しています。今後も環境省ガイドラインに基づく自己評価を有効活用し、継続的な改善を進めていきます。

【自己評価結果報告書】

株式会社 堀場製作所 CSR報告書「Gaiareport2013（冊子及び WEB 版）」について自己評価を実施いたしましたので、下記の通り報告します。

記

1. 評価実施者の氏名

所 属: グループ経営監査室
役職・氏名: 副室長 中井 真啓

2. 日付

2013年5月9日

3. 実施した手続きの内容

環境省「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」に準じ、評価表を用いて実施いたしました。

4. 評価対象

自己評価の対象項目は環境報告書ガイドライン 2007年版の29項目です。

5. 評価結果

評価対象項目について自己評価手続きを実施した結果、問題となる事項はありません。

以上

2013年5月9日

株式会社 堀場製作所
グループ経営監査室
副室長 中井 真啓

F-d

自己評価 環境報告ガイドライン 2007年版の29項目

1. 基本的項目

- BI-1 経営責任者の緒言
- BI-2 報告に当たったの基本的要件
- BI-3 事業の概況（経営指標を含む）
- BI-4 環境報告の概要
- BI-5 事業活動のマテリアルバランス

2. 環境マネジメント等の環境経営に関する状況

- MP-1 環境マネジメントシステムの状況
- MP-2 環境に関する規制遵守の状況
- MP-3 環境会計情報
- MP-4 環境に配慮した投融資の状況
- MP-5 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況
- MP-6 グリーン購入・調達状況
- MP-7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況
- MP-8 環境に配慮した輸送に関する状況
- MP-9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況
- MP-10 環境コミュニケーションの状況
- MP-11 環境に関する社会貢献活動の状況
- MP-12 環境負荷低減に資する製品、サービスの状況

3. 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

- OP-1 総エネルギー投入量及びその低減対策
- OP-2 物質投入量及びその低減対策
- OP-3 水資源投入量及びその低減対策
- OP-4 事業エリア内の循環的利用を行っている物質等
- OP-5 総製品生産量又は総商品販売量
- OP-6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策
- OP-7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策
- OP-8 化学物質排出量・移動量及びその低減対策
- OP-9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策
- OP-10 総排水量及びその低減対策

4. 環境配慮と経営との関連状況

5. 社会的取組の状況